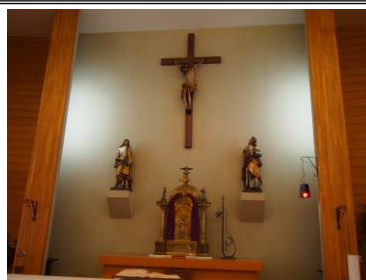


よきおとずれ

カトリック釧路教会だより
〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10
第 8 号 2017 年 2 月 19 日発行



希望をもって

主の平和 この貴重な恵みの光はいつも私たちの心を照らし、日常生活の支えとなりますように

昨年はいつくしみの特別聖年で御父である神様のいつくしみを味わって、他の人と分かち合うことが出来ました。神様に感謝。昨年は訓練でしたが、これからは本番ではないか？ひらいた心で神様からいただいたいつくしみを今後、ひらいた心ですべての人に伝える私たちの姿勢になりますように。

フランシスコ教皇は全世界の人によびかけています。「分裂の壁をこわして、橋を作りましょう」「いつくしみの文化を築きましょう」「愛情こもった目で、まずしい人苦しんでいる人のうちにいらっしやるイエズスを眺めましょう」

聖福音書に基づいた方法も教えてくださいました。ご紹介いたします。

身体的な慈善のわざ

- 飢えている人に食べさせる
- 渴いている人に飲み物を与える
- 着る物を持たない人に衣服を与える
- 宿のない人に宿を提供する
- 病者を訪問する

マウリリオ ラザロ 神父

受刑者を訪問する

死者を埋葬する

精神的な慈善のわざ

疑いを抱いている人に助言する

無知な人を教える

罪人を戒める

悲嘆に打ちひしがれている人を慰める

もろもろの侮辱をゆるす

わずらわしい人を辛抱強く耐え忍ぶ

生者と死者のために神に祈る

役に立ったら幸いです。

兄弟の皆さん、お互いに励まし合って、いつくしみのわざでまことの愛に渴いている心をみたましましょう。そうすれば、ある日、イエズス様が私たちに、むかってこう言うでしょう「わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、私は飢えていたときに食べさせのどが渴いていたときに飲ませ…」(マタイ 25 : 31-46)。

マリア様が弱い私たちを助けて、イエズス様のようにすべての人を大切にするように導いてくださいますように。いつくしみのわざにみちた年でありますように。

息子の召命

ヨハネ 富田 恵

帰路を急ぐ人たちでごった返す夕暮れの新宿駅で待ち合わせ。久しぶりの息子との再会だ。時間通りやってきた息子と、予め調べておいたしゃぶしゃぶ屋に入る。落ち着いた雰囲気店内は、まだ夕食時間には早い為か空いていて、ゆっくりと話をするには静かだよさそうさ。

今日の話は、そう、「息子が神父になりたい」という話。息子は、幼少期から口の達者なほうで、小学校の時から弁護士になると言っていた。まっすぐその夢に向かい、高校は釧路の進学校に進み、そして東京の某大学法学部に合格したのはつい半年前のことである。それが急に神父になるというのだから、父親としては青天の霹靂。正直なところそのまますんなりと呑み込めない何とも言えない感情があった。お互いなんとなくこちない中、息子の話は始まった。話が煮詰まってくると、しゃぶしゃぶを味わうどころではない。しゃぶしゃぶもいつの間にか煮詰まっている。

あれから7年が過ぎた。今となっては、正確に彼の話は覚えてはいないが、要するに神様との出会いがあったということ。そこはまた、東京に住む信仰深い祖母の助言や、尊敬するカルメル会の司祭との出会いなど、恵まれた人間関係が与えられていたようだ。さらに重要な霊的な話もあったが、私にはここで述べるほどの理解はない。なぜなら、彼は、私の理解を超えたところにいたからだ。私の

信仰の歩みはと言えば、山登りに例えると、高い木々に覆われた真っ暗な登山道を苦しそうに登っている登山者のようである。山頂の光は決して見えず、本当に山頂までいけるのか不安を抱きながら辛そうに足を運ぶ感じだ。彼はきっと、その林を抜ければ山頂が見えてくることを確信し、しっかりとした足取りで一歩一歩着実に前へ進んでいるという感じだ。

今の私は、これから先、息子がいろいろな試練に会おうとも「すべては神のみ旨のままに」と祈るのみである。なぜなら、そのみ旨に従うことが息子の幸せに違いないから。

息子は大学卒業後、男子跣足カルメル会修道院に入会、多くの方々の祈りと励ましに支えられ神学生として無事励んでいる。



誓願式での富田聡さん

釧路へきてよかったこと、嬉しかったこと

マリア グァン・ティ・ラン

皆さんこんにちは！私は釧路に働きに来てから1年半になります。ベトナム出身の21歳、霊名はマリアです。家族は5人です。両親は農業をされており、妹は高校生、兄は今、留学生で東京に住んでいます。

私は今、釧路漁業組合の水産会社で研修

生として働いています。釧路で働いている間、日本語を習得し通訳の資格をとりたいと思っています。将来はベトナムで日本語を教えられる先生になるのが夢です。



釧路に来た時はさびしさと不安の毎日でした。教会へ来ると信者の皆さんからやさしく声をかけられ親切にいただき、本当に安心した気持ちになりました。すごく嬉しかったです。そんなことで教会へ行くのがとても楽しみになりました。

日曜日が休みの日なので、教会が終わった後、国際交流センターで日本語の勉強をしたり、スーパーでの買い物、友人と会ったりして過ごします。

日本の食物は皆、おいしい物ばかりで大好物はカレーライス、ラーメン、パンです。(特にカレーライスはベトナムにはなく、最高においしい!)ベトナムのクリスマスやお正月は、日本と同じようにご馳走(春巻き、肉類)や飲み物をたくさん並べてお祝いしたり、子どもたちはダンスをしたり、プレゼントをもらったりして楽しめます。

釧路の生活には慣れたと言ってもまだまだ言葉がわかりません。これからも勉強し頑張っていきます。将来のため、家族のため、

そして神様、皆様がそばにいて励ましてくださることに感謝し、お祈りします。

本当にいつもありがとうございます。



おかあさん最後の手紙ですよ

モニカ 佐々木 律子

“おかあさんと呼んでも「はい」と言う返事がありません。おかあさん、今日は素晴らしい天気よと言っても「本当に気持ちいいね」がありません。

おかあさん、美味しいねと言っても「美味しいわ」の言葉がありません。おかあさん、あちこちスーパー買い物好きでしたね。「目玉商品ゲット」の得意顔がありません。おかあさん随分、旅もしたね。「あなた達が連れて行ってくれたから楽しませてもらったのよ」と思い出っばいの顔がありません。おかあさんは「お金は生かして生きた使い方をしなさい」「塵も積もれば山となるですよ」マネービルの話も聞かれません。

おかあさん、今度の日曜日は麻雀ですよと言うと「うれしい、楽しみ」と顔いっぱい笑顔がこぼれましたね。おかあさん、雨雪が降ると必ず「車、気をつけなさい」という電話がなく、心配してくれる人がいませんよ。

何をしても家族を一番に思い、たくさんの愛とつくしみをくれました。「親子だもの、あたりまえでしょう」がなく寂しくなりました。最後の最後までグーサインをしてくれた満足そうな顔が目につかびますよ。これからも私たちにたくさんの愛と楽しみをテレビで送ってくださいね。贈る言葉、ありがとう、感謝、又あう日まで 律子”

私は母がすごいと思ったのは6年前、母は「私に最後に残されたものはこれしかな

い」と一年間、教会に勉強に行き洗礼を受けたことです。家族皆、ビックリさせられました。

私は生前、5年間ほど、毎月月末にちょっとおしゃれな封筒に季節の切手を貼って手紙を書いて送っていました。母はそれをとても楽しみに読んでくれたようです。先

に書いたものは私が母に送った最後の手紙で柩に入れたものです。天国で読んでくれたでしょうか…。

この先もずっと私たちをこよなく見守り続けてくれることでしょうか。私も日々の祈りのうちに感謝しております。



訃報

昨年、司祭叙階 60 周年を迎えられたカリッシモ神父様が 2016 年 12 月 18 日に帰天されました。神父様の永遠の安息を祈りましょう



編集後記

2月7日にユスト高山右近の列福式が行われました。私は大阪には行けませんでした、インターネットの動画サイトで式に与ることができました。福者ユストの生き方を信仰の模範として心に留めていきたいものです。

さて、「いつくしみの特別聖年」は昨年 11 月に閉幕となりましたが、マウリリオ神父様が巻頭言でご紹介された「慈善のわざ」により、引き続き「神のいつくしみ」とともに歩みたいと思います。

(M.I)

カトリック釧路教会 〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823 FAX0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会